

第三次 環境基本計画 指標・目標値の推移と今後の対応

達成済	6
達成可能	4
達成予定	6
達成困難	15
計	31

資料 2

R8.1.27現在

施策テーマ	指標名	(単位)	担当課等	計画策定時 (令和2年度値)	計画目標値 (令和8年度)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度末の見込み(H列)	
						(計画値) R4実績	(計画値) R5実績	(計画値) R6実績	達成見込	達成のための課題と今後の対応
基本目標1 脱炭素社会の構築										
目標	温室効果ガス年間排出量★ (※R8の実績が把握できるのはR11となるため、R5の見込み値との比較により達成状況を把握する)	(t-CO2)	環境保全温暖化対策課	2,130,858 (H29)	1,513,858 (R8) 1,735,421 (R5)	(1,993,747) 1,932,767 (R1)	(1,925,190) 1,807,720 (R2)	(1,859,733) 1,843,979 (R3)	達成困難	毎年の目標は達成しているものの、温室効果ガス排出量推計ソフトの推計によると令和8年度の計画目標値には達しない見込み。家庭や事業者に対して、省エネ設備や太陽光発電の導入といった脱炭素行動を促す情報発信や支援策等を行うことで、温室効果ガスの排出量削減をより一層進める必要がある。
1-1	再生可能エネルギーによる電力自給率★	(%)	環境保全温暖化対策課	56.4%	70%	(58.7%) 57.9% (R3)	(61.0%) 62.5% (R4)	(63.3%) 63.9% (R5)	達成予定	太陽光発電の設備容量の増加により、電力自給率は毎年上昇している。引き続き家庭や事業者への太陽光発電の導入に向けた情報提供を行うとともに、公共施設においてもPPA事業等計画的な導入を図る必要がある。
1-1	太陽光発電の設備容量(累計)	(kW)	環境保全温暖化対策課	152,871	195,830	(167,191) 160,115 (R3)	(167,191) 165,733 (R4)	(174,351) 171,999 (R5)	達成困難	太陽光発電の設備容量は毎年増加しているが、現在の導入ペースでは令和8年度の計画目標値には達しない見込み。家庭や事業者への太陽光発電の導入に向けた情報提供の強化に加え、PPA事業等を活用した公共施設への率先導入を進めることで、太陽光発電の導入拡大を図る必要がある。
1-2	バイオマス発電量	(MWh)	環境保全温暖化対策課	65,821	84,501	(65,821) 63,782	(63,782) 62,614	(62,614) 51,199	達成困難	年々ながの環境エネルギーセンターへのごみの搬入量が減少したことで、全体的に発電量が減少している。また、予定されていた民間事業者による新規発電所の建設が進んでいない。事業者に対する情報提供等の支援を継続する。
1-2	バイオマス発電設備容量	(kW)	環境保全温暖化対策課	10,973	13,663	(10,973) 10,973	(10,973) 10,973	(10,973) 10,973	達成困難	計画策定以降、新たなバイオマス発電所の開設には至っておらず、現状見通しも立っていない。事業者の計画等に際して情報提供等の支援を行う。
1-2	未利用バイオマス利用率(参考)	(%)	環境保全温暖化対策課	49.0%	55.0%	-	-	-	達成困難	令和8年度に算出予定。引き続きバイオマス利活用の推進を図る。
1-3	市民一人当たりの年間温室効果ガス排出量★	(kg-CO2/人)	環境保全温暖化対策課	5,601 (H29)	4,251	(5,301) 5,139 (R1)	(5,151) 4,850 (R2)	(5,001) 4,957 (R3)	達成困難	毎年の目標は達成しているものの、温室効果ガス排出量推計ソフトの推計によると令和8年度の計画目標値には達しない見込み。家庭や事業者に対して、省エネ設備や太陽光発電の導入といった脱炭素行動を促す情報発信や支援策等を行うことで、温室効果ガスの排出量削減をより一層進める必要がある。
1-3	市内の年間エネルギー消費量(電気)	(Mwh)	環境保全温暖化対策課	2,277,686	2,072,694	(2,243,520) 2,186,127 (R3)	(2,175,190) 2,159,225 (R4)	(2,141,025) 2,179,691 (R5)	達成予定	令和4年度実績までは減少傾向だったが、令和5年度実績で増加し、目標に達しなかった。家庭や事業者に対して省エネ行動を促す情報発信を行うとともに、公共施設において省エネ対策を進めることで、電気使用量の削減を図る必要がある。
1-3	二人以上の世帯当たりの年間エネルギー消費量(電気、都市ガス・プロパンガス、灯油、ガソリン)	(MJ)	環境保全温暖化対策課	89,682	81,610	(86,991) 89,956	(85,646) 88,742	(84,301) 80,621	達成済	令和6年度実績から各エネルギーの熱量換算係数が低下したこと等により目標値を下回ったが、実際の使用量は大きくは減少しておらず、省エネに関する更なる啓発が必要。
1-4	自転車道などの整備延長	(km)	道路課	11.4	32.8	(16.1) 17.6	(22.6) 24.7	(30.4) 30.1	達成予定	順次整備を進めているが、整備計画に合った予算の確保が困難な状況。
1-4	歩道の整備延長	(km)	道路課	297.2	303.0	(299.0) 298.1	(299.5) 298.3	(298.8) 303.0	達成済	当初計画より前倒しで順次整備を進めているが、予算の確保が困難な状況。
1-4	市民一人当たりの公共交通利用回数	(回/人)	交通政策課	101.6	137	(137) 106	(137) 115.5	(137) 120.9	達成困難	バス路線の廃止減便等により公共交通の利用者数減少が見込まれるため、減少を最小限とするため、代替交通手段の確保に努める。
1-4	市民一人当たりの都市公園面積(都市計画区域)	(㎡/人)	公園緑地課	8.39	10.0	(9.52) 9.54	(9.60) 9.55	(9.60) 9.68	達成困難	財政的な理由等により公園整備の進捗率が低下しているため。現在整備中の南長野運動公園のフットボール場(10ha)が令和9年度末に完成予定であり、その時点で目標値を達成する見込みである。
1-5	搬出間伐による木材生産量	(㎥/年)	森林のしか対策課	9773	15,000	(11,000) 12,352	(12,000) 8,910	(13,000) 7,403	達成困難	林業事業者と協力し森林整備団地による集約化を行い、森林の整備を進めているが、施業面積や施業環境、施業地の状況など、様々な要因が重なり目標値に達することができなかった。
1-6	温暖化に伴う異常気象に対して日常生活の中で備えをしている(防災・減災対策や熱中症予防など)(アンケート)	(%)	環境保全温暖化対策課	48.0% (R3)	60.0%	(50.4%) 34.4%	(52.8%) 29.0%	(55.2%) 29.7%	達成困難	アンケートでの肯定的評価の割合は計画策定時よりも低下しており、目標に達していない。国や県、他自治体が紹介している適応策について情報収集し、適応策の実施及び市民への情報発信を行う必要がある。
基本目標2 循環型社会の実現										
目標	市民一人一日当たりのごみ総排出量★	(g/人・日)	生活環境課	926 (H30)	881	(900) 887	(894.0) 849.2	(890.0) 841.8	達成済	市民の分別意識・減量意識の定着により令和6年度に当初予定していた計画値を大きく下回り、2年続けて令和8年度の計画目標値を達成している。
2-1	事業系可燃ごみ排出量	(t)	生活環境課	39,115 (H30)	38,445	(38,981) 37,236	(38,847) 36,143	(38,713) 36,822	達成済	市民の分別意識・減量意識の定着により令和5年度に当初予定していた計画値を下回り、3年続けて令和8年度の計画目標値を達成している。
2-3	使い捨てプラスチックの削減に取り組んでいる(アンケート)	(%)	環境保全温暖化対策課	76.0% (R3)	80.0%	(80.0%) 77.5%	(80.0%) 75.5%	(80.0%) 76.8%	達成予定	回答者の実践状況では、肯定的評価は「70歳以上」が約91%で最も高く、次いで「社会人」「女性」などとなっている。全体的に肯定的評価は高く、ほとんどの属性で80%を超えているが、「男性」の取り組みがやや低い傾向にある。
基本目標3 豊かな自然環境の保全										
目標	豊かな自然環境が保たれている★(アンケート)	(%)	環境保全温暖化対策課	70.4% (R3)	現状値以上	(70.4%) 71.8%	(70.4%) 70.9%	(70.4%) 69.9%	達成可能	環境・体制の評価では、肯定的評価は「18～19歳」が約87%で最も高く、年代の上昇とともに低下する傾向にある。年度間で値にばらつきはあるが、概ね70%を超えている。
3-1	継続的調査により生息を確認する希少生物の数	(種類)	環境保全温暖化対策課	4	4	(4) 4	(4) 4	(4) 4	達成予定	指標生物4種の生息は継続して確認されている。
3-2	搬出間伐による木材生産量(重複)★	(㎥)	森林のしか対策課	9,773	15,000	(11,000) 12,352	(12,000) 8,910	(13,000) 7,403	達成困難	林業事業者と協力し森林整備団地による集約化を行い、森林の整備を進めているが、施業面積や施業環境、施業地の状況など、様々な要因が重なり目標値に達することができなかった。
3-2	森林体験年間参加者数	(人)	森林のしか対策課	1,386	2,150	(2,150) 2,313	(2,150) 3,219	(2,150) 8,774	達成済	みどりの少年団活動の活性化、ながの森林・林業フェアの開催等により、参加者数が大きく増加した。
3-2	生物利用等環境保全型農業推進事業の取組(戸数)	(戸)	農業政策課	2,362	2,500	(2,410) 2,189	(2,267) 2,015	(2,344) 1,287	達成困難	気象条件やほ場の環境による影響を受けやすく防除効果にはばらつきが出てしまう課題があるうえ、農家数減少や資材高騰に伴う導入者の減少が重なり取組戸数の減少となっている。引き続き生物利用等環境保全型農業に対する理解や関心を高め、関係機関と連携しながら、「環境にやさしい農業」の周知を進めていく。
3-3	市民一人当たりの都市公園面積(都市計画区域)	(㎡/人)	公園緑地課	8.39	10.00	(9.52) 9.54	(9.60) 9.55	(9.60) 9.68	達成困難	財政的な理由等により公園整備の進捗率が低下しているため。現在整備中の南長野運動公園のフットボール場(10ha)が令和9年度末に完成予定であり、その時点で目標値を達成する見込みである。
3-4	市内中小河川9河川の水質階級Ⅰの地点数	(地点)	環境保全温暖化対策課	8	7以上	(7) 7	(7) 8	(7) 8	達成済	市内中小河川9河川の水質階級は上昇傾向にあるため今後とも水質階級の上昇及び現状維持に努める。
基本目標4 良好で快適な環境の保全と創造										
目標	空気や水がきれい、まちも美しく保たれている★(アンケート)	(%)	環境保全温暖化対策課	71.8%	現状値以上	(71.8%) 73.2%	(71.8%) 74.4%	(71.8%) 74.0%	達成可能	肯定的評価は「18～19歳」が約87%で最も高く、「20～59歳」の世代では概ね80%となっているが、「60歳以上」の年代では低下する傾向にある。
4-1	大気環境基準達成率(光化学オキシダントを除く)	(%)	環境保全温暖化対策課	100%	100%	(100%) 100%	(100%) 100%	(100%) 100%	達成可能	何れの項目も直近10年で環境基準値を大きく下回って推移しており、今後も同様の傾向が見込まれる。
4-1	市内中小河川13河川の水質環境項目(BOD)平均値	(mg/ℓ以下)	環境保全温暖化対策課	1.6	2.0以下	(2.0以下) 2.0以下	(2.0以下) 1.5以下	(2.0以下) 3.7	達成可能	令和7年度調査の1河川において突発的な水質異常を生じたため9河川の水質環境項目(BOD)平均値の上昇を招いた。現在、原因究明の調査を実施している。
4-2	地区環境美化活動における参加者一人当たりのごみ回収量	(g/人)	環境保全温暖化対策課	470	300	(300) 322	(300) 346	(300) 331	達成予定	環境美化活動への参加人数は横ばいであるが、回収されるごみの量が減少傾向にあり、目標達成される見込みである。
4-2	中心市街地の路上ポイ捨て吸い殻本数(年間)★	(本)	環境保全温暖化対策課	346	300	(300) 346	(300) 403	(300) 445	達成困難	たばこのポイ捨て本数は増加している。その原因を究明するとともに、条例の周知のためさらなる啓発活動を検討していく。
基本目標5 協働と学びの推進										
目標	環境学習会年間参加者数★	(人)	環境保全温暖化対策課	2,683	5,500	(5,500) 3,094	(5,500) 2,145	(5,500) 3,912	達成困難	子どもを中心とした環境学習会の参加者数は年々増加しているが、受け入れられる人数には限りがあり、目標値の達成は困難。
5-1	環境保全活動参加者数	(人)	環境保全温暖化対策課	1,814	4,000	(4,000) 1,799	(4,000) 2,401	(4,000) 2,522	達成困難	ながの環境パートナーシップ会議が中心となって活動し、参加者数は上昇傾向にあるが、会員の高齢化により大幅な活動拡大は困難な状況。

環境基本計画